

理事長就任のご挨拶

6月18日に、理事長を拝命いたしました、中尾成邦でございます。

SCOPE NEWSの紙面をお借りしまして、皆様に理事長就任のご挨拶を申し上げます。

私、国土交通省を退官して、ほぼ丸6年がたちました。
その間、NPO、民間マリコンに勤務しておりましたが、
この度、ご縁があつて、SCOPEに勤務させて頂くことになりました。

感謝の気持ちとともに、重大な責任も背負ったということ
で、気持ちを新たに、職務を遂行してまいります。

また、この6年の間に、SCOPEをとりまく社会の状況も大きく変化し、それにつれてSCOPE自体も変わってきております。

まず、「2年前にSCOPEが一般財団法人」に衣替えたこと、また、職員も、以前は「派遣職員が主だったことから比べ、飛躍的に増加」したこと、さらに、「受注環境が、一般競争入札」になったことがあげられるでしょうか。

港湾空港関係の仕事も、高度化、複雑化してきております。大規模な新規の案件も少しはありますが、これからは、改良、維持、管理への比重が高まるものと思われますし、それに付随して、仕事の中身も多様化していくものと思われます。

さらに、SCOPEの主な業務先である、直轄の職員の減少と高齢化により、当財団の役割は、ますます重要になっていくと思われます。

このような状況下、理事長就任にあたって、以下のことを念頭に、仕事を進めていきたいと考えております。

まず一つは、「人材育成」です。

現在、SCOPEは約320人の正職員がおりますが、平均年齢は55歳と、非常に高くなっております。直轄の人員構成も、高齢化が進み、平成21年から平成26年の5年間で、平均年齢が3.2歳高くなって、今は43歳だそうです。国土交通省も、同様の危機感を持って、この4月、厚生労働省と連携し、「建設業の人材確保、育成策」をとりまとめ、発表しました。

具体的に、どのような方法で、SCOPEの人材育成をするかは、これからですが、私の在任中の一つの大きな課題とします。

二つ目は、[甲、乙の橋渡し]です。

これも昨年5月に、「担い
手三法」(公共工事品確法、**理事長 中尾 成邦**
建設業法、入札契約適正化法)が、国会で、成立しまし
た。その内容は詳しく説明はしませんが、一つ大きく考え
方が変わったと思われるのは、発注者、受注者の関係が
一方的でなくなったことではないかと思われます。SCOPE
はいわば、発注者と受注者の間に立って、いい意味での
「橋渡しの立場」で、存在感を増せるのではないかと思っ
ております。

以上二つのことを頭に入れながら、さらに、社会の役にたつ仕事をするを前提に、「SCOPEの職員雇用の確保」と「適正な対価を頂くこと」を忘れずに、職務を果たしていきます。

最後に、SCOPEも大きな組織になり、東京の本部よりも、全国の現場で働いている職員が多数だと思います。是非、できるだけ多くの現場に行き、職員の皆様と顔を合わせ、話せることができるよう心がけてまいりますとともに、これからも賛助会員の皆様方、関係の諸団体の皆様方のご支援、ご鞭撻を、お願いいたしまして、就任の挨拶とさせていただきます。



理事長 中尾 成邦

CONTENTS

- 1 理事長就任のご挨拶
- 2 「第11回理事会」の開催報告
- 2 技術講習会及び施工技術報告会の開催
- 3 『港湾空港関係事業における電子納品講習会』を全国5会場で開催
- 4 第9回舗装のアセットマネジメントに関する国際会議への参加報告
- 6 SCOPE 現場訪問 ―快速で潤いのある海岸環境を目指して―
新潟港海岸 海岸保全施設設置備事業
- 8 SCOPEからのお知らせ

「第11回理事会」の開催報告

(経営企画部 総務課長 木崎 朋弘)

平成27年度最初の理事会が5月28日(月)当センター会議室で開催されました。

理事会には理事8名、監事2名が参加し、まず始めに当センターの矢代理事長から挨拶があり、その後、来賓としてご出席いただいた国土交通省大臣官房技術参事官の菊地様ご挨拶の後、当センターの矢代理事長を議長として議事が進められました。「平成26年度事業報告・決算報告」他4件が審議されました。



【審議事項】

第1議案「平成26年度事業報告及び決算報告について」

- 「平成26年度事業報告」について岩崎専務理事より、昨年度実施しました、事業に関する調査研究事業、システムに関する調査研究事業、情報収集・提供に関する事業、技術の復旧・啓発事業、審査・認定事業、技術支援事業及び東日本大震災復旧・復興事業について、具体的な事例をもとに説明を行いました。
- 次に、平林業務執行理事が「平成26年度決算報告」について、一般財団法人移行後2度目の決算であり、昨年決算額との比較をして以下のとおり説明を行いました。

【平成26年度の決算額】

経常収益額	6,257百万円
経常費用額	6,036百万円
税引前利益額	221百万円
税引後利益	138百万円

稲村監事より監査結果について、適正に行なわれている旨の報告がありました。採決の結果、全員異議がなく原案とおり承認されました。

第2議案「公益目的支出計画実施報告書の件について」

平林業務執行理事が平成27年6月に内閣府に申請する「公益目的財産額」に対する平成26年度決算で確定した公益目的支出額について説明をおこないました。平成26年度の確定額は以下のとおりです。

普及啓発事業

経常収益額 18百万 経常費用額 104百万

情報収集提供事業

経常収益額 20百万 経常費用額 39百万

採決の結果、全員異議がなく原案とおり承認されました。

第3号議案「評議員会への理事候補者推薦の件について」

矢代理事長より理事候補として推薦する3名及び再任理事6名、再任監事2名について説明を行ない、その後5月15日に開催した役員候補者審査会での審査状況と意見について縣理事から報告をいたしました。その結果、全員異議がなく第3回評議員会に全員推薦することが承認されました。

第4号議案「定款の一部改正について」

評議員会の召集を会長に定めているが、会長不在の場合は理事長が招集することを追加する定款の一部改正について審議され、原案とおり承認されました。

第5号議案「第3回評議員会開催の件について」

6月18日に開催される議案について説明を行い、原案とおり承認されました。

理事会での審議案件終了後、岩崎専務理事より「スコープを取巻く最近の状況について」理事・監事の方々に報告を行ない、本理事会を終了いたしました。

最後に、今回の理事会の開催にご協力いただきました関係者の皆様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

(※ 役職名は、5月28日現在で記載)

技術講習会及び施工技術報告会の開催

(審査・認定部 主任研究員 島田 伊浩)

海上・空港工事施工管理技術者の技術力の向上を図ることを目的として技術講習会を開催しました。技術講習会は5月から6月に、札幌、東京、大阪、福岡の4会場で開催され、計389名の方が受講されました。第1部の講習内容は、2名の大学教授による共通講演、継続学習の課題等についての講習を行った後に、第2部では海上工事施工管理技術者と空港工事施工管理技術者に別れて講習を行いました。海上工事施工管理技術者は、プロジェクト報告及び維持管理についての講義を、空港工事施工管理技術者は、空港の舗装と安全等についての講義を受講しております。受講生には、最後に受講報告書を作成して頂いています。各講演の内容は下記の通りです。

また、海上・空港工事の施工技術の伝承の一環として、札幌、東京、福岡会場では、技術講習会 第1部の後に、施工技術報告会を開催しました。施工現場において発生した課題と解決策及び評価について、海上・空港工事施工管理技術者の方に報告をして頂きました。海上・空港工事の現状や課題に対する対応等の報告を聴講することにより、海上・空港工事に携わる技術者の情報共有や技術の向上が図られるとともに、日頃直面している諸問題への対応等について相互啓発にも繋がります。各報告の内容は下記の通りです。次回、秋期技術講習会は東京、名古屋、高松、那覇の4会場を予定しています。



●技術講習会

○共通講演

「公共プロジェクトの契約問題の動向と必要なマネジメント技術」

東京都市大学 総合研究所 社会基盤システム研究室 主幹 草柳 俊二(東京、福岡)

「土木構造物の寿命と品質確保」 横浜国立大学 名誉教授 池田 龍彦(札幌、東京、大阪)

「社会資本の老朽化と維持管理の課題について」

東洋大学 理工学部 都市環境デザイン学科 教授 福手 勤(札幌、大阪、福岡)

○プロジェクト報告

「東日本大震災による港湾の被災と復旧について(釜石港の状況)」

日本埋立浚渫協会 東北支部 勸角 康之(札幌)、岩本 和之(東京)、岡田 大典(大阪)、佐々木 康裕(福岡)

○維持補修について

「港湾施設の変状と対策、点検診断のポイント(コンクリート構造物を主として)」

港湾PC構造物研究会 研究会技術アドバイザー 内藤 英晴(大阪、福岡)

「港湾鋼構造物の腐食・防食および維持管理について」

防食・補修工法研究会 研究会技術アドバイザー 柏木 達夫(札幌)、研究会技術アドバイザー 阿部 正美(東京)

○空港の施設について

「空港舗装の現状と課題について」 SCOPE 客員研究員 八谷 好高(札幌)

「空港舗装のマネジメントシステムについて」 SCOPE 客員研究員 八谷 好高(東京、大阪)

「空港管理とエアサイド工事」 SCOPE 客員研究員 唯野 邦男(札幌、大阪、福岡)

○空港の安全について

「航空安全プログラム(SSP)について」 SCOPE 上席調査役 富沢 今朝一(東京、大阪)

○資格について

「継続学習の課題と対応について」

SCOPE 主任研究員 島田 伊浩(札幌、大阪、福岡)、主任研究員 林田 秀樹(東京)

●施工技術報告会

「超長尺杭打設と超遅延剤を添加したコンクリートの施工」

鹿島建設株式会社 井藤 金満(札幌)

「供用中バスにおける海底配管の建設工事」

大成建設株式会社 金 浩昭(福岡)

「ガット船の設置位置について」

りんかい日産建設株式会社 小森 眞吾(東京)

『港湾空港関係事業における電子納品講習会』を 全国5会場で開催

(システム部 上席調査役 西原 孝仁)

一般財団法人港湾空港総合技術センターは、平成27年5月18日の名古屋会場を皮切りに、6月8日まで、全国5会場で『港湾空港関係事業における電子納品講習会』を実施しました。

昨年度より、従来の『港湾CALS講習会』から『港湾空港関係事業における電子納品講習会』に名称を変更し、

港湾分野だけでなく空港分野も含めた資料内容に改め、「地方整備局(港湾空港関係)の事業における電子納品等運用ガイドライン【工事編】【業務編】【資料編】」が適用される工事・業務に従事される皆様への周知を目的として開催いたしました。

講習会は、以下のプログラムにて進めました。最初に、

電子納品の管理ファイルに登録する情報と完成図の作成方法について、レイヤ名、ファイル名等を規定する「港湾空港関係の電子納品運用ガイドライン」の留意事項を説明し、次にSXF (P21) 形式で図面データを作成する際の留意事項について、SXFの普及活動を行っている（一社）オープンCADフォーマット評議会から講師をお招きして解説いただきました。最後に、港湾関係における運用の詳細や工事帳票管理システムの利用について、受講者にとってわかりやすく実際の操作手順が体験できるように、システムのデモを取り入れるなどの工夫を行いました。受講後のアンケートでは、講習内容について「よく理解できた」「まあまあ理解できた」、講習会資料は「必要十分だった」との意見をいただきました。

なお、本講習会では、昨年同様に、「土木学会継続教育」、「全国土木施工管理技士会連合会継続教育」、「海上工事施工管理技術者制度」、「空港工事施工管理技術者制度」の認定プログラムとして受講証明書を発行し、受講者の最新技術や知識の継続的な習得に役立てていたできるようにしました。

【受講者数】

実施日	実施場所	受講者数
5月27日	仙台	56
5月25日	新潟	49
5月18日	名古屋	46
6月4日	広島	51
6月8日	高松	59
計		261

平成27年度港湾空港関係事業における電子納品講習会 プログラム

- 13:30～13:35 主催者挨拶
- 13:35～14:25 港湾空港関係の電子納品運用ガイドラインについて
- 14:35～15:35 SXF (P21) 形式での完成図作成時の留意点について
- 15:45～16:40 事前協議、工事帳票管理システムの利用と電子納品について
- 16:40～17:00 質疑応答等



▲講習会場風景-1



▲講習会場風景-2

第9回舗装のアセットマネジメントに関する国際会議への参加報告

(システム部 主任研究員 奥野 一暢)

平成27年5月18日から21日の4日間、第9回舗装のアセットマネジメントに関する国際会議 (9th International Conference on Managing Pavement Assets, ICMPA9) が、米国交通研究部、バージニア州運輸局、バージニア



▲ザ・ウェスティン・アレクサンドリア (会場)

工科大学、連邦道路局、米国全州道路交通運輸行政官協会、世界道路協会の主催で、バージニア州・アレクサンドリアで開催されました。

アレクサンドリアは、米国で3番目に古い国立歴

史地区の一つで、ワシントンD.Cからポトマック川を挟んだ向かい側に位置する、とても美しい都市で石畳に煉瓦造りの建物が印象的でした。



▲アレクサンドリア (市庁舎)

【会議の議題】

1. 「次世代」舗装マネジメントシステム
2. 舗装アセットの持続可能な設計、建設、メンテナンスおよび運営
3. パフォーマンス測定、実施目標および契約要求事項
4. さまざまなアセットマネジメントステークホルダーの説明責任

5. 先進的、有効かつ持続可能な舗装のマネジメントと適用

【会議スケジュール】

2015年5月18日（月）－ワークショップ

- ・ 舗装マネジメントへの招待
- ・ 開発途上国・新興国における舗装マネジメントなど

2015年5月19日（火）－オープニング全体セッション・個別セッション

2015年5月20日（水）－個別セッション

2015年5月21日（木）－個別セッション・最終全体セッション

（5月19日～5月21日）－ポスターセッション

【出席者】

- ・ 舗装の設計・マネジメント技術者
- ・ 舗装マネジメントサービスおよびデータ収集が業務の企業
- ・ 舗装マネジメント、舗装／アセットに係る技術者、研究者等

会議では、メインテーマである「長期的な舗装マネジメントに向けて、技術革新の受入れと持続可能性、説明責任および性能向上への取組み」について、参加者から革新的な意見が出されていました。

当センターからは、建設マネジメント研究所 八谷客員研究員と私の2名が参加しました。

Poster Sessionでは、「OPTIMAL BUDGET ALLOCATION SYSTEM FOR AIRPORT PAVEMENT REHABILITATION IN JAPAN（日本における空港舗装の補修に係る最適予算配分システム）」を紹介しました（AirPORTSを開発して、それを実際の空港舗装に適用した事例の現状を紹介したものです）。



▲Plenary Session：全体セッション



▲Breakout Sessions：個別セッション（分科会）

AirPORTS（空港舗装補修時期最適化システム）の概要は、次の通りです。4つのサブシステムから構成されています。

①データベースサブシステム

補修工法ごとの表面性状の経年変化速度、回復度、工事単価が格納される。

②最適工法選択サブシステム

①のデータベース（表面性状の変化速度・回復度、補修費用等）に基づいて、検討対象期間中の許容PRI（舗装補修指数）を満足し、しかもトータルコストが最小となるような最適補修工法が舗装施設ごとに選定される。

③年度別補修費用予測サブシステム

検討対象期間に応じた年度別の補修費用が算定される（補修時期、範囲ならびに費用の予測）。これにより、舗装施設ごとの補修計画（補修時期と費用）が立案でき、全ての舗装施設についての補修計画を総合することにより、空港全体としての年度別の補修費用が算定される。

④予算平準化サブシステム

各年度で補修に関する一定の予算額が与えられることを前提に、その上限額を超えないように年度別の補修費用の平準化が図られる。

空港等の舗装アセットマネジメントに関する最新の技術情報等を収集することができ、有意義な海外出張となりました。当センターにおける空港舗装に関する研究業務に役立てたいと考えます。また、海外出張という初体験を通じて、自己の見聞を広められた事に感謝致します。



▲Poster Session：ポスター展示



▲Innovation Gala Dinner：懇親会

Site Visit

SCOPE 現場訪問

—快適で潤いのある海岸環境を目指して—

新潟港海岸 海岸保全施設整備事業



北陸支部

調査役 増井光男さん

テクニカル・エキスパート 関本勝廣さん

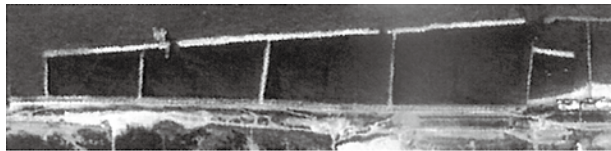
テクニカル・エキスパート 古野幸治さん

テクニカル・エキスパート 坪 高光さん

People who create port and airport.

侵食により最大350mも後退した新潟西海岸

信濃川河口に位置する新潟西海岸は、明治ごろまでに信濃川から供給される豊富な土砂の堆積によって発達してきた海岸です。2つの海水浴場は明治後半から大正にかけて開設され、長いあいだ市民の憩いの場として親しまれてきました。



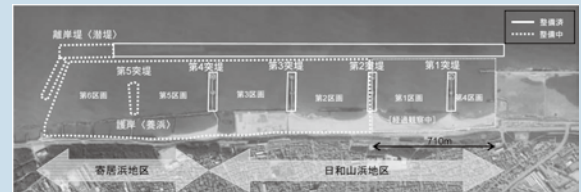
▲既設離岸堤沈下状況（上：昭和48年、下：平成26年）（寄居浜地区）

しかし、度重なる信濃川の氾濫や洪水に対処するための河川改修工事や船舶の航行を安全にするための河口突堤の築造等の工事などにより、信濃川上流部から運ばれる土砂の量が減少し、汀線の後退が始まりました。測量を開始した明治22年から昭和60年までの間に、汀線は最大350m後退しています。昭和30年頃以降は、離岸堤、縦堤などの侵食対策施設の整備によって大幅な汀線の後退はなくなりましたが、離岸堤前面洗掘の進行や沈下などは治まらず、施設の倒壊も懸念されるようになりました。

現在の新潟西海岸の背後には、古くから発展している新潟市の中心市街地があり、小中学校や大学などの教育機関、文化施設や、多くの企業や官公庁などが点在しています。その周辺には住宅も密集しており、海拔ゼロメートル地帯が広がっているため、海岸が侵食されると、高波浪が発生したときに浸水してしまう恐れがあります。

DATA 新潟港海岸 海岸保全施設整備事業

- 整備施設：離岸堤（潜堤）延長2,390m、突堤 第1～第5、護岸（養浜）延長2,540m
- 事業期間：昭和61年度～平成33年度
- 総事業費：約502億円



People who create port and airport.

潤いのある海岸環境が創り出せる面的防護工法

こうした危険性を回避するため、昭和61年度から国直轄による新たな海岸侵食対策に着手、翌年から工事が進められています。新たな海岸侵食対策には、海岸地形をより安定的、持続的に防護し、且つ、より快適で潤いのある海岸環境の創出が可能となる面的防護工法が導入されました。

「面的防護工法というのは、約500m沖合の潜堤と海岸から、直角に伸びる突堤等の構造物を複合的に配置して、潜堤の背後に砂浜を造る工法です。これまでは、海岸侵食の主な要因になっている波浪を、浅海域の離岸堤で一気に遮断する方式でしたが、面的防護工法は、沖合の幅広天端の潜堤や砂浜などによって波のエネルギーを徐々に減らしていく方式です。こうすることで潜堤前面の海底面を含め、海岸地形を安定的に維持することができるので、広い静穏水域と砂浜を創り、親水空間としての利用もできるようになります」（調査役 増井さん）

People who create port and airport.

厳しい気象・海象状況の工事現場

6月の取材時現在、離岸堤（潜堤）は計画2,390mに対して2,180m、突堤は計画5基に対して4基が完成。護岸（養浜）は計画2,540mに対して710mが完成しています。

今回取材した作業ヤードとして利用している第3区画では、冬場の時化による陥没があり、復旧工事が行われていました。



「新潟西海岸の工事は日本海に面しているので、海象状況が悪くなる9月末までに海上での施工を終わらせるような工程が組まれています。とくにお盆を過ぎると波が高くなり残るようになるので、潜水士が作業する基礎マウンドの均し作業は、より安全に施工を行うためにもお盆前までに終わらせるよう計画しています。工事現場ごとの気象・海象状況を把握して施工するのは基本的なことですが、現場で確認業務に携わる我々も常に心がけておかなければいけない大切なことです」(テクニカル・エキスパート 関本さん)

一方、離岸堤(潜堤)に使用する消波ブロック等の製作は、海岸線に面した作業ヤードで行われています。消波ブロック等が据付され、作業ヤードにスペースが空いた段階で製作するため、これらは冬期間の施工となります。

「製作は海に面した場所で行われるので、風浪が厳しくなる冬場は風に対する注意が必要です。風の強い日は、現場の風速を常に確認しながら業務を行っています」(テクニカル・エキスパート 古野さん)

また、冬場は風が強いことから、飛砂の影響にも注意を払う必要があります。

「強風により養浜砂が背後の住宅や道路にも飛んでしまうので、対策として飛砂防止ネットを設置していますが、年ごとに飛砂の状況は異なりますので難しいですね。砂は生き物ですから」(テクニカル・エキスパート 坪さん)

People who create port and airport.

親水空間として大きな期待が寄せられる西海岸

面的防護工法による養浜工事で砂浜が造られたことによって、夏は海水浴やビーチバレー、ビーチテニスなどを楽しむ方で賑わうようになりました。

「近頃はますます利用される方が多くなっているように感じます。長年、西海岸の整備に係わってきましたが、市民の皆さんに喜ばれる海岸になってきたことは嬉しいですね。西海岸を拠点として活動しているプレジャーボートの利用も多く、特に夏場は工事エリアの近くを航行したり、釣りを楽しむ方もいるので、安全確保にはより一層、神経を使っています」(調査役 増井さん)



新潟西海岸に砂浜と美しい海岸線がよみがえることで、親水空間としてより多くの方に利用されることが期待されています。



◆現場で 20年の女性工事担当者◆ 国原建設株式会社 難波理恵さん

「この仕事を始めてもう20 年になります。以前、事務員をしていた仕事場に資材などがあり、ショベルカーで移動する作業を少し教えてもらうことがありました。こういう仕事に就けたらおもしろそうだな、と思ったのがきっかけです。そんな時、今の会社に重機の扱いを教えてあげるから勤めてみないかと誘われたんです。始めた頃はコミュニケーションの方法などが女性の職場とは違って、いろいろなことが新鮮でしたね(笑)」

People who create port and airport.

Voice

利用者の声 【『ビーチライフ in 新潟』実行委員 吉江常浩さん】

新潟西海岸の砂浜では、「ビーチライフ in 新潟」というイベントを平成19年から毎年開催しています。このイベントは、地元の町内会やスポーツ団体等が一体となって実行委員会を組織し、行っているもので、今年で9回目となります。西海岸の整備が進み、市民が安心して利用できる砂浜ができたことから、ここで地域の活性化や交流を図るイベントができないものかと考えていました。開催は1日のみですが、万代太鼓や沼垂木遣などの伝統芸能、バンドの演奏など幅広いステージイベントがあります。ビーチバレーやビーチサッカーも行っています。また子供も楽しめるピーサン跳ばしやアサリ採りなどたくさんの企画があります。年々多くの方に

参加いただくようになり、去年は延べ3,500人の来場がありました。イベント当日は事務局のスタッフが道路の交通整理や駐車場の案内を行い、開始前には全員でゴミ拾いも行っています。

事業が完成することにより、これからさらに安全で利用しやすい海岸になってほしいと思っています。「ビーチライフ in 新潟」は今年も7月26日に開催します。多くの皆さんに会場に来て、楽しんでいただきたいと思います。



People who create port and airport.

Voice

現場からの声

【調査役 増井 光男さん】

北陸地方はこれから夏場にかけて蒸し暑く、12月以降の冬場は冬季風浪に加えて風雪が吹き荒れる厳しい気候となります。夏場の海上工事では蒸し風呂状態の海上での立会等業務、冬場の消波ブロック製作工事は海に面した吹きさらしの陸上作業ヤードでの立会等の業務となるため、担当技術者へは夏場の熱中症対策や冬場の防寒対策を含めた健康管理等に努めています。

【テクニカル・エキスパート 関本 勝廣さん】

補助業務に就いて9年になりますが、施工管理・測量システム等が格段に進歩・普及して驚いています。施工計画書に記載される新工法・技術についてインターネットで検索・確認することが多くなってきました。この工事でも新工法・技術が採用され、より確実・安全な施工ができると思います。それでも最後はやはり人の目で確認することが必要です。工事が無事故、無災害で竣工できるように、安全面でも注意を払っていききたいと思っています。

【テクニカル・エキスパート 古野 幸治さん】

現在、新潟西港地区と新潟港海岸（西海岸地区）の施工状況確認補助、品質監視補助施工プロセス業務を担当しています。この業務に携わる一員として、施工業者の時に培った施工の知識や経験を生かしつつ、発注者や受注者と共により良い物作りにも携わっていききたいと思っています。

【テクニカル・エキスパート 坪 高光さん】

現在、新潟西港及び新潟西海岸において多種多様な工事・工種に携わり品質監視等補助業務を行っています。自分の経験から発注者、受注者との連携を密にとり、スムーズな工事の進捗に努め、なによりも安全第一が最優先ということを念頭に入れ、これからも業務を行っていききたいと思います。



▲左から 関本さん、古野さん、増井さん、坪さん

取材・文：(株)ホライゾン

SCOPE からのお知らせ

版物のご案内

- 港湾施設の点検・補修技術ガイドブック（平成 27 年 4 月発行）

港湾施設の維持管理に対し、その省力化とともに、点検診断や補修工事等における安全性の確保、精度・品質の向上を図る上で、維持管理に関する新技術の開発・活用を積極的に進めることは重要です。

本ガイドブックは、港湾分野における新技術のうち、昨今新たに導入された実績のある補修・改良技術の要点を取りまとめたもので、構造物の種類や劣化の症状に合わせて選択できる技術を体系的に整理し、適用可能な技術を分かりやすく把握できるように配慮しました。



SCOPEの平成27年7月以降の主な行事予定

- | | |
|---|-------------|
| ○ 第 31 回 SCOPE 講演会
講師：東京大学生産技術研究所准教授 巻 俊宏 氏
演目：「海中プラットフォーム技術の現状と展望」 | 7 月 1 日（水） |
| ○ 研究開発助成（平成 26 年度実施）成果報告会 | 7 月 8 日（水） |
| ○ 平成 27 年度 海上工事施工管理技術者資格一次試験 | 8 月 23 日（日） |
| ○ 平成 27 年度 空港工事施工管理技術者資格認定試験 | 8 月 23 日（日） |
| ○ 平成 27 年度 空港土木施設点検評価技士資格認定試験 | 8 月 23 日（日） |

皆様のご意見ご感想をお待ちしております。



一般財団法人 港湾空港総合技術センター

U R L : <http://www.scopenet.or.jp> E-mail : info@scopenet.or.jp本 部：〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関 3 - 3 - 1 尚友会館 3 階
代 表 T E L : 03-3503-2081 F A X : 03-5512-7515

※本誌は、環境に優しい大豆インクで印刷しています。